

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 うまい！新聞を召し上がれ！ 4年〇組新聞社より
～青葉の森の魅力、再発見～

2 単元の目標

- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、記事を書くことができる。
(知識及び技能 (1) ア)
- 相手や目的に応じて必要な材料を集めたり、選択したりして構成を考えて新聞を書くことができる。
(思考力、判断力、表現力等 Bア)
- 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして文や文章を整えることができる。
(思考力、判断力、表現力等 Bエ)
- 新聞に親しみをもって読み、自分の書きたいことを新聞に書き表そうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等
言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、記事を書いている。	相手や目的を意識して、経験したことや調べたことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして文や文章を整えている。	新聞に親しみをもって読み、自分の書きたいことを新聞に書き表そうとしている。

○具体の評価規準に対する成長のための手立て

- ・Aの児童…一番伝えたい記事を選び、割り付けを決め、伝えたいことの中心を明確にして書いている。
初めて読む人にもすぐ理解できるような内容にすることを促す。
- ・Cの児童…モデルを参考に一緒に点検したり、児童の語彙を引き出したりして机間指導を行う。

4 単元について

(1) 本単元における言語活動について

本単元は、3、4年生の「書くこと」の指導事項ア「相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること」、指導事項エ「間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして文や文章を整えること」を受け、伝えたいことの中心を明確にし、相手や目的を意識した分かりやすい文や文章を書くことをねらいとし、見学したことや調べたことを材料にして書くことで身に付けることができるように設定している。

そこで本単元では、「うまい！新聞をつくる」という言語活動を設定する。ここで言う「うまい」とは、「上手い」と「旨い(美味しい)」を掛け合わせており、①「優れた」や「見事な」という意味と、②旨い(美味しい)料理の作り方と新聞の作り方には共通点があるという意味を込めている。新聞は、特定

あるいは不特定多数の読者に様々な情報を与える目的で作られる。そのため、児童は「読者に分かりやすいように」「誤りのないように」という意識をもって新聞を書いていくことになる。読者目線に立った、分かりやすい新聞こそが①に当てはまる。②については、「料理名（見出し）」「材料（見出しや記事といった要素）」「調理法（記事の書き方）」「盛り付け（割り付け）」の4点が挙げられる。料理を食べるお客さん＝新聞を読む読者であり、「食べてみたい」＝「読んでみたい」と思わせる新聞づくりに取り組ませたい。記事には見出しがあり、読者の興味を引きつけるような色、文字の大きさや位置などの工夫がなされている。内容は端的に、限られた分量の中で情報がまとめられ、文字だけで伝えきれないことは写真、絵、図、表などを使って紙面を構成している。記事は5W1Hで書かれ、物事を客観的に伝えるための文章の書き方を学ぶことができる。つまり、「伝えたいことの中には何かを考えること」（材料の選択、見出し、割り付けなど）、「必要な事柄を調べ、相手に分かりやすく書くこと」（取材、記述）、「文章の間違いを正したり、より良い表現に書き直したりすること」（推敲）の力を伸ばしていく上で新聞という材は適しているといえる。

さらに、今回扱うテーマは「青葉の森の魅力、再発見」とした。青葉の森公園は、学校からも近く豊かな自然がある他、スポーツ施設や文化施設も充実しており、本校の児童だけでなくたくさんの方々にとって親しみがあり、誇るべき場所の一つとなっている。そんな青葉の森公園の魅力について改めて調べ、紹介することは児童にとって大きな意欲付け、新たな発見につながると考えられる。

（2）本単元で身に付けさせたい力

本学級の児童は、校外学習や総合的な学習の時間をはじめとし、各教科等の学習の中で、様々なことを調べたり見学したりする機会が増えている。その中で、自分なりに関心を深めて書こうとすることを決めていくことが求められる。書くことにおいては、その場を共有しない相手を想定して書くことが必要になることから、より一層相手意識や目的意識が重要である。また、書くことの中心を明確にするためには、まず文章全体を通して自分の書きたい思い、伝えたいことをはっきりと意識することが必要である。さらに、分かりやすく伝えるために、調べたり経験したりしたこと、絵、写真、図、表といった事物などを取り上げて表現する力が求められる。しかし、現段階では調べた事柄を課題に合わせて選材できず自分の伝えたいことがはっきりとしなくなったり、資料をそのまま写してしまったりすることが少なくない。その課題を踏まえた上で、取材、構成、執筆、推敲という一連の新聞作成の流れを追う学習展開としている。新聞をつくるという活動を通して、書くという行為だけではなく、書くために話し合う、資料を読み解き必要な情報を取捨選択する、などの総合的言語活動をおさえることが、本単元におけるねらいである。

まずは新聞の形式を理解し、全体の構成や割り付けを考える力を身に付けさせたい。そのためには、実際の新聞を用意したり、教師のモデルを示したりすることで新聞の形式や特長に気付かせ、新聞を書くイメージを膨らませていく。日常的な取り組みとしては、各新聞社がインターネットで配信しているワークシート集（別紙①参照）を活用する。様々なジャンルの記事にふれたり、見出しを空欄にしたものを配付し、児童自身が記事の内容に合った見出しを考えてつけたりできるようにする。さらに日々の新聞を教室に置き、自由にいつでも手に取って見られるようにすることで、新聞を読む経験を積ませると共に、新聞に対する関心を高めていく。

そして読者が分かりやすいように伝えたいことの中心を明確にして書き、発信する力を身に付けさせたい。今回、発信先は地域の方々と設定する。地域の方々と一口に言っても、同年代をはじめ、若い方から年配の方まで様々であり、知りたい情報は人によって異なるだろう。どんな相手に何を伝えたいの

か、読者は何を知りたいのか、という点を念頭に置いて情報を集め、記事を書いていく必要がある。

また今回新聞は一人ではなく、グループで作っていく。複数の人数で一つの新聞を編集するために、話し合い活動（＝編集会議）を多く取り入れ、限られた紙面にどの情報を載せるかなどを吟味することで、考えを深めたり広げたりできると考える。友達と関わり合い話し合う中で、個々の考えを広げ、比較し、関連付けていくことで新たなアイデアが生まれ、より良い新聞づくりに役立つと期待できる。

学習の振り返りは、自分自身で読み返すだけでなく、書き上げたものを友達と読み合って交流することにより、客観的に見直したり、学習に対しての充実感を味わわせたりすることができるように目指していきたい。

5 児童の実態（省略）

6 単元の指導計画（12時間扱い）

次	時	学習活動と内容	指導や支援の手立て（◇は評価）
第一次	1	○学習の見通しをもち、単元計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉の森の魅力を再発見し、新聞にして地域の方に伝えようと呼びかけることにより、学習に対する意欲がもてるようにする。 ◇新聞に親しみをもって読んでいる。 （学びに向かう力、人間性等） ・教材文の例を参考にしながら、新聞を作るまでの学習の仕方を確認することにより、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
	2	○教師のモデルを見て、気付いたことや感想を交流し合う。 ○新聞の形式や特長を知る。	
第二次	3	○取材計画を立てる。 ・相手 ・目的 ・場所 ・方法 ・見てくること、聞いてくること	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで行ってきた情報収集の仕方の確認や新たに情報収集の仕方を指導することにより、必要な情報を集めることができるようにする。 ・インタビューが必要な場合は、事前にアポイントを取るようにする。 ・デジタルカメラを用意し、目的を意識して必要な写真が撮れるようにする。 ◇相手や目的に応じて必要な材料を集めている。 （思考力、判断力、表現力等） ・記事決定には、思考ツール「ピラミッドチャート」を用いることで、思考を整理し、意見を交流しやすくする。 ・台紙とマス目の入った割り付けシートを配付し、スペースに合わせて切り分けて割り付けがしやすいようにする。
	4・5	○記事を書くために青葉の森に行き、取材する。	
	6	〈編集会議①〉 ○取材メモをもとに、新聞に載せる記事について話し合う。 ○トップ記事、その他の記事、記事の文字数など割り付けを決定する。	

			<p>◇新聞記事の割り付けを決めるために、根拠をもって話し合いを進め、工夫した割り付けを考えようとしている。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを中心を決め、簡潔に一文を短くして書くように伝える。 <p>◇言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、記事を書いている。</p> <p>(知識及び技能)</p>
	7	○記事の下書きをし、2～3個見出しを考えて短冊に書く。	
	8	○それぞれの記事を読み合って校正する。 ○友達の記事に合う見出しを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の書いた下書きをグループ人数分コピーして配付することで、手元に置いて話し合いがしやすいようにする。
	9	〈編集会議②〉 ○読者を引き付ける、一目でわかる見出しについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・読者の目を引く言葉になっているか、記事の内容や書き手の意図が表されているかなど、観点を与えて話し合わせる。
本時	10	〈編集会議③〉 ○紙面の最終調整をする。	<p>◇記事に合うより良い見出しになるよう、根拠をもって話し合いを進め、伝えたいことをより明確にしようとしている。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んでもらう相手を常に意識させ、見やすい紙面に仕上げるよう指示する。
	11	○記事の清書をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでもらう相手を常に意識させ、丁寧に書くよう指示する。
第三次	12	○完成した新聞を読み合い、感想を交流し合う。 ○学習の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価、自己評価を通して、伝えなかったことが相手に伝わったかどうかを確認する。

(課外) 必要に応じて取材活動を適宜行う。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

○記事に合うより良い見出しになるよう、根拠をもって話し合いを進め、伝えたいことをより明確にすることができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の展開 (9 / 12)

学習活動と内容	○教師の指導・支援 (◇は評価)
1 前時までの学習を振り返り、本時の学習問題を確認する。	○前時の振り返りと本時の学習計画を確認させることで、読者の目を引く見出しを考えるという学習への意欲付けを行う。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">一目でわかる、うまい！見出しを考えよう。</div>	
2 読者の目を引く見出しの特徴を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・記事の内容が一目でわかる ・書き手の思いが伝わる ・数字があって具体的なイメージがもてる ・短くてリズムがよい ・インパクトがある 	○読者の目を引く言葉になっているか、記事の内容や書き手の意図が表されているかなど、観点をまとめた掲示物で確認できるようにする。
3 見出しについて吟味する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「○○さんの記事のキーワードは△△だから、この言葉は入っていた方がいいね。」 ・「この内容なら、○○という言葉を使うとどうだろうか。」 ・「投げかけの言葉を付け加えたらどうかな。」 ・「漢字ばかりの見出しはちょっとわかりにくいな。」 ・「もう少し短い言葉に置き換えられないかな。」 ・「この2つの見出しに出ている言葉を組み合わせたらどうかな。」 	○友達の書いた校正済みの記事を、グループ人数分コピーして配付することで、手元に置いて話し合いがしやすいようにする。 ○机間指導を行い、積極的に見出しを考えている児童を称賛したり、会議が停滞しているグループと一緒に考えたりして支援する。 ○書き手には思いがあるので、友達に言われたことをすぐに直すのではなく、伝えたいことに合った見出しにするよう声掛けをする。 ◇記事に合うより良い見出しになるよう、根拠をもって話し合いを進め、伝えたいことをより明確にすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
4 うまい！見出しができたことへの感想をもち、発表する。	○他の友達の見方や感じ方にふれることで、自分とは違う見方をする人のことも考えて表現することの大切さを実感できるようにする。
5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○次時では紙面の最終調整を行うことを伝える。